

2022年度夏季企画展

新潟市會津八一記念館所蔵 『會津八一名品50選』 発刊記念

# 「獨往の書」 八一の手紙編

## 作品解説パンフレット

美と白何れ  
筆の術の使命  
は那辺にありや



新潟市會津八一記念館

2022  
7/12  
(火)  
9/25  
(日)

會津八一生誕140年事業として2022年3月に制作した当記念館所蔵品図録「會津八一名品50選」の発刊を記念し、夏季企画展は會津八一の手紙を中心に構成します。八一は生涯で2万通を超える手紙を書くほど、筆まめな人でした。八一の手紙には、彼の人柄、生活、処世、学芸に対する主張などが滲み出ており、その卓越した文章力と筆跡の美しさが相まって異彩を放っています。

はじめに

本展覧会では、作品を意識して記した書簡「與奥田勝書」「歌をよむには」「中田瑞穂宛書簡」や、八一の感情が強烈に表れた私信まで一堂に展示いたします。そこから浮かび上がる八一の芸術観や人生論、その他、激励や謝辞、説教など日常の八一のさまざま内面を紹介いたします。

さらに今年は、大正時代末から八一を支援した古美術評論家・料治熊太（1899～1982年）の没後40年に当たることから、料治との交流をしのぶ手紙や資料も併せて陳列いたします。

2022年7月

新潟市會津八一記念館

## 目次

はじめに

目次と凡例

第1章 會津八一名品50選』に掲載された書

第2章 八一の手紙

第3章 新収蔵品(2021年度)

第4章 没後40年 料治熊太と會津八一

【参考】 會津八一の手紙にみる封筒の書き方

出品リスト

2

3

5

13

57

66

75

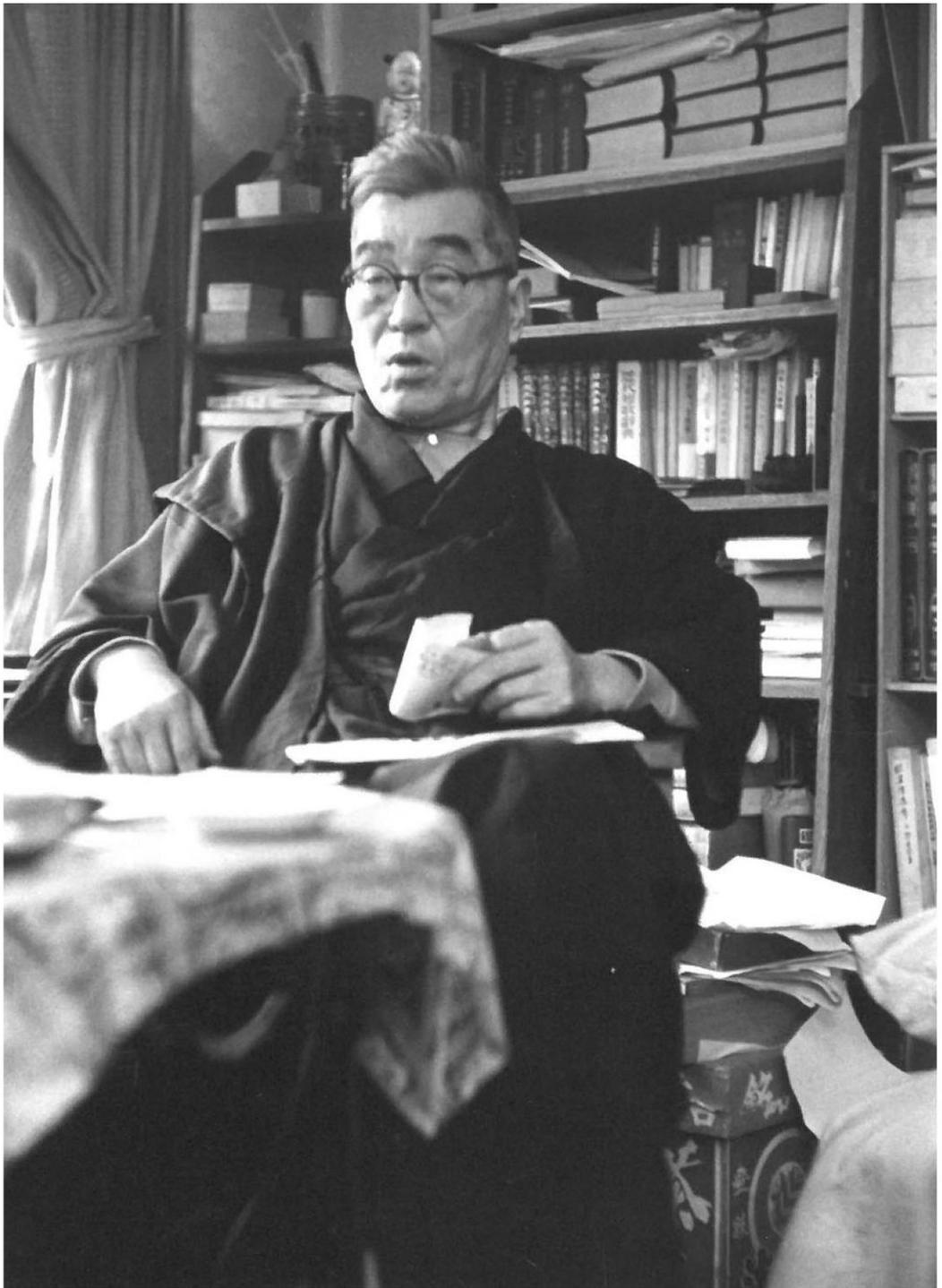
77

## 凡例

・この冊子は、新潟市會津八一記念館2022年度夏季企画展「獨往の書 ―八一の手紙編―」の展示作品および関連資料を図版と解説で紹介したものです。

・書簡の原文にある旧字体は、新字体に改めました。また、読みやすくするために、原文にはない句読点を釈文に入れていきます。

・75ページの参考：會津八一の手紙にみる封筒の書き方』は、會津八一記念館特別展「逆境からの再出発」(2000年)に掲載した図版と釈文を転載しました。



## 第1章

# 『會津八一名品50選』に 掲載された書

會津八一記念館の収蔵品は、歌人、書家東洋美術史学者として知られる會津八一（1881～1956）の書画、原稿、書簡、遺品など12,000点余りに及びます。その中から50点を厳選したのが、本年春に刊行した『會津八一名品50選』です。

八一の書は、漢詩・自詠歌・画賛・書簡その他、題材が多岐にわたっています。

それら全てに通じるのは、作品に八一の学芸と人格が色濃く反映している点です。古典の字形や筆遣いに捉われがちな專業の書家とは異なり、八一の書は、彼の人間性を垣間見ることができ、まさに文芸をたしなむ風雅な文人の書そのものと言えます。

この章では、そのような八一の書の魅力を紹介します。



第1章 『會津八一名品50選』に掲載された書

《壽》

【書】昭和21（1946）年以降（65〜75歳）

一文字  
壽

秋艸道人

一字のみの書は漢字のもつ構造、造形性が強調される。會津八一の場合、数や種類は多くないが、「無」「心」「夢」などを揮毫している。

八一は講演「書道について」で自身の書について「全面積をユニフォームテイー（均一）に書く実用的な書道といふものがあり、それに嫌らないものがそこにリズムを求めて不平均を芸術としてゐる」と述べる。

本作品は右上がりの横線がリズムカルに書かれている。